



埼玉県中体連卓球専門部マガジン

部活動で強くなる



埼玉県中体連卓球専門部強化部



【はじめに】新人戦も終わり、来年度の夏大会に向けて各校再始動したかと思えます。新人大会の目標は達成できたでしょうか？今回は、新人大会の結果により出場できる**関東選抜大会**への道の思い出について6名の先生方に書いて頂きました。先生方の生徒との頑張った軌跡や思いが集まっています！今号も是非お楽しみください！



- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 小井戸健太
～駒西中学校（北川辺中学校）～ | 2 小谷 周士
～深谷市立南中学校～ | 3 田中 一光
～草加市立青柳中学校～ | 4 矢野 裕太
～さいたま市立大宮東中学校～ |
| 5 卜部 芳枝
～深谷市立権羅中学校～ | 6 河本 晃紀
～和光市立第二中学校～ | | |

① 卓球部顧問になって高いベスト8の壁…そして壁を越えた先に【平成26年度の挑戦】

卓球部顧問になってから5回のベスト8挑戦があり、すべて敗退しました。一番ベスト8に近かったのが、私の2校目の勤務校である北川辺中と挑んだ平成25年の新人大会と平成26年の学総体の2大会ではないでしょうか。

まず、新人大会では夏の東部地区大会で初優勝を果たし、そのあとの新人大会の前哨戦である県の強化試合でも上位に入賞、いざ本番に臨みました。本番では当時、ノーシードで勢いに乗る戸田中とベスト8決めであたり、競るも2-3で惜敗、そして夏の学総体でもベスト16まで勝ち進み、今度こそベスト8進出と意気込んでしっかりと勝ち進み、勝負のベスト8決定戦の相手は…何と奇しくもまた戸田中。そして今回もかなり競るもまたもや敗戦。新人時と比較しても生徒も大きく成長し、顧問も生徒も今回はかなり自信があったのですが、戸田中の粘りに見事にやられてしまいました。この当時、本当に悔しくてどうしたらベスト8に入れるのか、まったく分からなくなっていました。そこで困った末、私の師匠である鴻巣北中の青木先生(当時)に相談したところ。「**今までと練習試合する相手を変えてみてはどうか？**」と提案されました。

今までは県内の学校や近くの学校や高校、他県でも比較的近い群馬県や茨城県の学校に練習試合をお願いしていましたが、そこから相手を広げていくことにしました(青木先生は**自分たちよりも強い様々な学校とやった方が良い**とアドバイスを頂きました)。

当然、練習試合をするには相手の先生と面識があればスムーズに話が進みますが、意気込みだけが私にはそういうツテはありません。ですので使った手は、みなさんの創造通り、「**電話作戦**」です。電話作戦には強豪校を呼ぶ技があります。私の学校とやっただけと言っても、基本的に「どこの学校ですか？」になりますので、まずは県外の強豪校を呼ぶための準備が必要なのです。その**方法は1校で良いのでまずは面識のある埼玉の強豪校を練習試合に誘い(急だと難しいのでかなり前からお願いしておくこと)。**

そして、その学校が来ることを使って、また別の学校を誘う…そして県外の学校にも手を伸ばす。これを繰り返していくと相当数の高レベルの学校が集まる練習会となっていきます。そうして県外の学校の知り合いを増やしていききました。そして来ていただいた県外の学校にも、その県の別の有力な学校を紹介してもらい、次の機会に誘うということを繰り返していききました(その結果、逆に練習会やオープン大会等に誘われる機会も増えました)。そんなことを毎回やっていたので、この当時、相当数の県外の学校と試合をすることになっていました。後ほど掲載しますが、初めて関東選抜に出場できた時、何と**出場校47校のうち38校(80%強)と大会や練習試合などで当たった経験**がありました。ここから今まで大会以外では試合することが無かった東京や栃木、千葉、神奈川といった学校との交流がどんどん増えていきました。また、県内においても近場の高校だけでなく、県内の強豪校の高校などにも連絡をし、足を運び、高校の先生方とも知り合いとなりました。

そんなことを前年と違い繰り返した結果、平成26年の秋の新人戦での6回目の挑戦で初の団体ベスト8を達成できました。本当に感無量でした。顧問になって1度は団体でベスト8に入りたかったので目標が達成できた、そんな瞬間でした。そしてそこから夢が広がりました。

ベスト8に入れたということは、関東選抜出場のチャンスがあるとうこうことです。今まででは考えられなかった関東の2文字、せっかくなので、このチャンスを活かしたいと思っていました。

ここで関東選抜に出場するための条件の整理をすると、埼玉県で関東選抜に出場できるのは6校、出場条件は、新人県大会にて団体ベスト4に進出するか、ベスト4決定で負けた学校同士の代表決定戦に勝利するかの2パターンしかありません。

そして勝負の準々決勝が始まりました。この試合に勝ったら初の関東選抜です。相手はというと…ベスト8入りのアドバイスを頂いた、優勝候補の師匠青木先生が率いる鴻巣北中だったのです。鴻巣北中は6年連続で関東選抜出場を果たしている強豪中の強豪です。そんな鴻巣北中との試合はというと、何と、何と、何と、接戦に…なりませんでした。ダブルスが相手のダブルスに勝ったぐらいで、相手のシングルの3選手にあっという間に3本を取られ、瞬く間に勝敗が決してしまいました。

ですが、この試合は忘れ、次が勝負の代表決定戦です。ここに勝てば夢の関東選抜です。その相手は夏に関東大会に出場した強豪の松山中です。松山中を分析すると、県上位に入るエースがいて、準エースもいて、ダブルスも勢いがあり、かなり強いチームです。勝つにはオーダーをうまく当てなければならぬのですが、オーダーは半分ギャンブルみたいなものです。オーダーを交換していざ、勝負です。

オーダー的には最高の結果になりました。相手のエースにこちらのエースが当たらずに済み、なおかつ、こちらも相手の準エースには、こちらのエースだけが勝つ可能性があるのですが、見事にオーダーが当たったのです(ですが絶対に勝つ保証はありません)。ですがダブルスが勝つとは思っていましたが、この試合でダブルスが不調で簡単に相手に3本取られてしまいました。結果的にここまで2-2。多少、思い描いてはいましたが最後は競っているこちらのエースと相手の準エースの試合にすべては託されることになりました。先に2ゲームを先取して、行けるかなと思いましたが3ゲーム目は競るも、相手に取り返され、2-1となりました。リードはしていますがここが勝負です。アドバイスを細心の注意を払い、このゲームこそが勝負だと伝えました。おそらくこのゲームを取られると流れ的に負けになる可能性が高い、だからこそ、このゲームこそが勝負なのだと言いました。エースはあまり緊張していなそうだったので自分の卓球を心掛けるように、そしてみんなが応援している旨を伝え、4ゲーム目に送り出しました。全員が一か所に集まり、応援が始まりました(私も相当、声を出していたと思います)。そしてカットマンのエースは私のアドバイス通りに的確に戦い、見事11-5でこのゲームを取り、結果3-1で勝利しました。最後の点数が決まった瞬間の高揚は今でも覚えています。隣をみると生徒がみんな抱き合っていてとても良い雰囲気でした。その生徒たちの中には目から涙を流している生徒もいました。私も感動し、卓球部の顧問をしていてよかったなと感じた瞬間でした。

そのあと、3月に関東選抜に出場しましたが、4校のリーグ戦で3位となり、決勝トーナメントには上がれなかったのですが、当時はあった3位トーナメント進出し、2回勝ってベスト4で燃え尽きました。負けはしましたがとても良い思い出となりました。

初めてのベスト8から始まった関東選抜への道、ただ関東選抜よりも、やはりベスト8に入るのがどんなに大変か思い知らされています。壁が本当に高い。私の知っている先生方の中にもこの壁に挑戦して、なかなか超えられない方々も大勢います。ただ諦めずに挑戦し続ければ、いずれチャンスがくるはず。そして達成できたとき、また新たな一面に出会えるはず。



第21回関東中学校選抜卓球大会

期日：平成27年3月14日・15日 会場：栃木市総合体育館

男子出場校(48校) ※赤字は対戦経験あり

東京：尾久八幡、実践学園、小平二、桐朋、寺島、羽村一

埼玉：日進、鴻巣北、大砂土、戸田、小川西、北川辺(本校)

神奈川：万騎が原、六角橋、鶴間、美しが丘、岡津、西本郷

千葉：日の出、市川二、鎌ヶ谷三、四街道西、高津、鎌ヶ谷

群馬：薄根、藪塚本町、前橋一、前橋七、宮郷、生品

茨城：泉丘、豊浦、笠間、下館南、潮来二、谷田部東

山梨：山梨大附属、増穂、甲府南、山梨北

栃木：城山、小山三、大平南、南河内二、岩舟、黒羽、大田原、宝木

② 思い出に残る関東選抜大会

関東選抜について大変だったことは何かと言われても、あまり考えたことがありませんでしたので少し振り返ってみようと思います。

当時、私の顧問としての目標はシンプルで、「県大会出場、それが部活のゴール!」と考えていました。しかし、私の目の前に現れたのは、カデット大会で良い成績をおさめたそこそこ強い1年生たちでした。「**県大会じゃなくて…関東選抜、狙いたいです。**」と真剣な目で訴えてきたことが衝撃的でした。普段はもの静かで控えめな卓球初心者の彼らが、関東選抜という大きな夢を語る姿に、顧問として「よし、やってやろう。」と思うとともに、正直、動揺しました。関東選抜へ出場させた経験もノウハウも全くなかったからです。

しかし、彼らは本当に卓球が大好きでした。体育館を開けておけば、YouTube で最新の技術を研究し、自主的に練習する情熱を持っていました。また、一つ上の学年が人数が少なかったので常に試合に出場しなければいけない状況でした。それが多くの経験を積むことになり強くなったのだと思います。

高い目標のためには、もちろん**保護者の協力**も欠かせません。県外への遠征が多くなり大変だったと思います。本当に感謝しています。招待試合や練習試合では、保護者も一緒に応援が盛り上がり上げてくれた様子でした。

新人戦の県大会でベスト8に入り、関東選抜出場という目標を達成し、ついに迎えた関東選抜ですが、未知の世界への挑戦でした。私自身、緊張したかといわれればそんなことはなくて、**実は一番ドキドキしたのは、大会申し込みや弁当の注文、宿泊手配がちゃんとできているかどうか**でした。関東選抜の試合よりも事務仕事に神経を使った顧問、それが私でした。もう少し、タイムをとるなどベンチワークや試合を楽しめればよかったと後悔しています。

大会当日、ピカピカの体育館、普段は無い、快適なベンチに感動しました。選手たちは未知の緊張感の中、堂々と戦い、初日に一勝をもぎ取りましたが、予選リーグ敗退が決まり、ホテルに戻った彼らは「次は総体で関東大会に行く!」と目を輝かせていました。負けた悔しさよりも、前を向く強さを感じました。関東選抜大会で大きく成長をしたように感じました。私自身も卓球の顧問として少し成長させてもらいました。

③ 悲願の関東出場～すべての積み重ねが今に～

① 関東出場への決意

私が卓球部の顧問になったのは、教員になって7年目のこと。元々いた男子卓球部の顧問の先生が異動したことを機に、教員になってからずっとやりたかった男子卓球部の顧問になることができました。

元々いた3年生が引退した後、改めて部としての目標を部員たちと考えました。みんなで決めた最初の目標は『県大会ベスト8』。しかし、練習を重ねていくうちに「どうせなら何か大きなものを掴んで終わりたい」という思いが強くなり、最終的な目標は『関東大会出場』になりました。

当時のメンバーは、私がこれまでに受け持った部員たちの中で最も卓球への情熱が強く、実力も申し分ないメンバーが揃っていました。練習試合を重ね、確実に目標達成へと近づいていくのも感じていました。しかし、コロナウイルスの流行によって学総は中止に。夢への挑戦すらできなかったのです。無念でなりませんでした。彼らの思いを繋げたいという一心で、それ以降も『関東大会出場』という目標を掲げることにしました。

② 関東への壁

卓球部の顧問になって2年目。女子卓球部と合併し、「卓球部」としての活動がスタートしました。男子の方が女子に比べ球速が早く回転量も多いため、男子と練習することで女子の実力が急速に伸びていったように感じます。3年目までに、男子も女子も県大会への出場は果たしましたが、強豪校に当たってすぐに負けてしまうということがよくありました。トーナメントで入る場所を良くするためにはシード権を勝ち取る必要があったのです。

顧問になって4年目の新人戦。最初のチャンスが回ってきました。前の代の3年生の人数が少なかったこともあり、当時の2年生女子は試合経験が豊富で実力を付けていました。ここにきて初めての“県大会ベスト8”。関東選抜をかけた試合に臨むことになったのです。しかし、結果は惨敗。ベスト4決定戦では強豪校の新座二中に、敗者復活の決定戦でも本庄南中学校に敗れてしまったのです。相手の実力もさることながら、今までにないプレッシャーのかかる試合で、選手たちが十分に実力を発揮することができませんでした。学総こそはと、選手と共に誓いました。

そして、彼女たちと臨んだ学総。新人戦でベスト8だったこともあり、トーナメントで内シードを獲得。何とかまた、4位決定戦まで勝ち上がることができました。相手は強豪校、騎西中。カットマンや粒高が多い守備型のチームです。結果は惨敗。堅実なプレーに強豪校のプライドを感じました。その後、敗者復活にまわることになりましたが、めげずに戦った彼女たちの努力もあり、関東最後の一戦をかけた決定戦に進みます。相手は川口南。同じく関東を目指していたチームで何度か練習試合もしていた学校でした。全てをかけた一戦。私も応援の限りを尽くしました。…試合終了。選手たちは最後まで一生懸命に戦い抜きましたが、夢を勝ち取ることはできませんでした。彼女たちと共に流した涙は今も忘れません。あと一歩…。近いようで、とても遠い一歩に感じました。

その後は男子も実力をつけ、“県大会ベスト8”を勝ち取るまでになりました。しかし、ベスト4強の壁は厚い。強豪校に阻まれ、最後の一步で関東に進むことができずにいました。

(続きます)

③念願の関東出場

卓球部の顧問になって6年目。その代の2年生は男女共に卓球が好きな生徒が多く、練習への意欲も段違いでした。練習がない日は自分たちで公民館に行き、自主的に練習に取り組むようなメンバーだったのです。また、彼らの代では今までの反省を踏まえてカットマンの育成にも力を入れました。今まで力のあるカットマンがいなかったこともあり、関東をかけた大事な試合で相手チームのカットマンに苦戦したからです。様々な戦型がいるチームを作ること、多くの試合に対応できるようにしました。この代の男子は「裏裏の攻撃型1人、裏表の攻撃型1人、裏粒攻撃型1人、裏アンチ攻撃型1人、ペン粒1人、カットマン1人」、女子は「左利き裏裏攻撃型1人、右利き裏裏攻撃型1人、裏粒攻撃型1人、ペン粒2人、カットマン1人」の構成でした。1年次よりバランスの良い構成を考えてきたつもりです。

最大のチャンスが訪れたのは2年次の新人戦。今までの先輩たちのおかげもあり、トーナメントで良いシード枠を確保することもできていました。先輩たちと大事な試合を共にしていたメンバーも多かったので、大事な場面でも取りこぼすことなく試合ができていたように思います。

県大会1日目の男子団体。ベスト4決定戦では、優勝候補の新座二中と当たり負けてしまいました。しかし、関東選抜をかけた敗者復活の決定戦では、勢いのあるプレーによって和光二中を倒し、**念願の関東大会出場を果たすことができました。それはもう、かつてない興奮でした。ずっと見たかった、生徒たちの最高の笑顔を見ることができました。**

県大会2日目の女子団体。前日に男子が関東を決めていたこともあり、女子はより一層緊張したスタートとなりました。当時の女子は県内のチームの中でも関東出場候補の一角でしたので、男子以上にプレッシャーを感じていたのだと思います。初戦はやはり怖いものです。緊張しながらも、必死に自分たちのプレーをしようとする生徒の熱意が伝わりました。トーナメントが進み、ついに関東をかけたベスト4決定戦。相手は強豪校、新座二中。前日に男子が敗れた学校です。緊張の一戦。生徒が全身全霊を込めて試合する姿は今もなお記憶に新しいです。…試合終了。生徒の努力が実った瞬間でした。女子も関東出場を決めることができたのです。準決勝では美原中に惜しくも敗れてしまいましたが、最終的に第3位という嬉しい結果を残すこともできました。

④大きな目標を達成するために

この経験を踏まえ、改めて「大きな目標を達成するためには**“好き”**と**“積み重ね”**が大切である」ということを実感しました。“好き”は最大の原動力です。どんなに良い指導者がいても、どんなに良い練習環境がそろっていても、当の本人がそれを“好き”でなければ、本当に良い結果を出すことは困難です。ただ真面目に努力するだけでも足りないように思います。なぜなら、“好き”な人はただ努力をしている人以上にそれに夢中で取り組むことができるからです。そのエネルギーは凄まじいものです。

また、今回の結果は彼らだけで手にしたものでもありません。**今までの先輩たちがチームの基盤を作ってくれたからこそ**、良い結果を残してシード権を手にしてきてくれたからこそそのものだとも思っています。長年の積み重ねが、この結果につながったのです。

あの時の感動をまた味わうために、何よりも選手たちに大きな感動を味わってもらうために、これからも生徒と共に頑張っていきたいと思います。長文になってしまいましたが、ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。

④ 本気で関東を目指した2年間。そこで学んだこと。

私は卓球を教えたくて教員になったわけではありません。中学時代に卓球部だったので顧問になりました。しかし今では、卓球という競技に少しでも貢献したいと考えていますし、**部活動には大きな価値**があると考えています。

このように考えることができてるのは、今までお世話になった多くの先生方、保護者の方々、生徒のみなさんのおかげです。その感謝をこの場をお借りして申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、私が初めて県大会ベスト8を経験したのは、顧問を始めてから4年目の令和4年度新人戦でした。代表決定戦は新曾中と当たり、2-2で最後のシングルスはフルゲームのデュースまでもつれ込む熱戦でした。惜しくも負けてしまい、「卓球は一本勝負なのだ」ということを痛感した試合でした。そこから、本気で関東を目指す日々が始まりました。それまでのチームは県大会ベスト16を目標にしていたので、私にとっては未知の領域への挑戦でした。

がむしゃらにやっていたので、多くの方にご迷惑をおかけしたと思います。県内外の強豪校や県内の高校に飛び込み電話をかけさせていただいたり、保護者の方々にも県外への引率やクラブ設立をお願いしたり…。生徒にも結構な無茶を言っていたと思います。やればやるほど、「**引き返せない、負けられない**」というプレッシャーで一層ピリピリしていきました。学総が近づく中で、転機となったのは春の県強化試合でした。絶対に負けられない相手であった東松山南中学校に負けてしまい、私はかなり落ち込みました。その時は、本当に生徒たちに助けられました。**心身ともに疲れているはずの生徒たちが夜、自主的に練習している姿を見て、心動かされて泣きました。**それからは本当に選手を信頼でき、**「負けられない」ではなく「勝ちたい**」と考えるようになりました。そして迎えた学校総合体育大会は、ベスト8という結果で関東大会には手が届きませんでした。しかし、どの試合も最高の試合で、最高の大会であったと思います。

関東選抜に出場したのはその次の代で、令和5年度新人戦でした。**先輩が残してくれたシード権、部活の環境**は大きいです。しかしそれ以上に、よく先輩たちの背中を見ていて、**卓球が大好きな人たちだったからこそ成しえた結果だ**と思います。

そのときの代表決定戦は勝瀬中と当たり、2-2で最後のシングルスはやはりフルゲームになりました。5-2でリードして迎えたチェンジエンド、その選手は毎回チェンジエンド後に逆転される流れがあったので、タイムアウトを取り「一本勝負だぞ。」と声をかけました。その後8-2までリードを広げ、最後は11-8で勝ちました。**選手たちの喜ぶ姿は今でもはっきりと覚えています。**

卓球を通して学んだことはたくさんありますが、**『卓球でしか叶わない夢がある』**(卓球専門部コロナウイルス対策キャッチコピーより)と実感させてくれたこの2年間には特に感謝しています。

⑤ 本気で関東を目指した2年間。そこで学んだこと。

1. はじめに

この度、我が卓球部は、「関東選抜中学校卓球大会」への出場という大きな目標を達成いたしました。この成果は、選手たちが自らの個性を磨き、チームとして一つの形を作り上げた努力の結晶です。日頃より活動を支えてくださっている保護者の皆様、そして温かいご声援をいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

2. 壁を乗り越えた生徒たちのひたむきさ

新チームが発足した当初、関東選抜大会という目標は、彼女らにとってまだ「夢」に近いものでした。

新チームは、全員中学校から卓球を始めた生徒ばかりです。しかし、非常に個性的で多彩な選手が揃っています。前線で変幻自在な攻守を見せる「ローター」が3名、粘り強い守備で相手のミスを誘う「カットマン」が1名、そして安定した攻撃でチームを支える「シェイクハンド」が2名。この多様性こそが、新チームの最大の武器です。

部活では、練習時間が限られる中、生徒たちは自ら考え、工夫することを学びました。異なる戦型同士が互いにアドバイスを送り合い、「どうすれば相手を攻略できるか」「自分の戦型をどう活かすか」を日々研究しました。ローター選手は相手を翻弄する技術を磨き、カットマンは1点をもぎ取る執念を、シェイクの選手は決定力を高める。部員たちは、それぞれの役割を明確にしていきながら、チームとしての力を向上させ、絆を深めていきました。

3. 予選で見せた部員の結束の瞬間

県大会では、キャプテンの声に呼応し、全員の気合が1つになり、戦型は違っても心は完全に一致していました。試合中、ダブルスの2人が粘り強くつないだ1点を、シェイクの選手が鋭いマッシュで決め、ローターの選手が3人とも変幻自在な攻守で、ベンチや客席にいる選手たちが必死に声を出し、1戦1戦勝ち上がっていく。そんなチームの心を一つにした光景は、まさに「全員卓球」を体現するものでした。苦しい場面での粘り強さや、土壇場での逆転劇において、生徒たちで誓い合った決意を思い出し、誰一人として最後まで諦めることは決してありませんでした。

4. おわりに

生徒たちが自分の戦型に自信を持ち、ここまで成長でき、この快挙を支えてくださったのは、日頃から多大なるご理解とご協力をいただいている保護者の皆様、そして温かい声援を送ってくださったすべての方々の存在こそが、チーム最大の推進力となりました。

関東選抜大会では、高いレベルを肌で感じ、一回りも二回りも大きく成長できることと思います。この貴重な経験を糧に、次の学校総合体育大会、そしてその先の未来に向けて、さらに進化した生徒たちの姿を見せられるよう、今後も指導に励んで参ります。

深谷市立幡羅中学校 女子卓球部顧問 卜部 芳枝

⑥ 関東選抜に出場するための条件【三度目の正直】

これまで6年間指導してきて、夏の関東大会は2回出場することができましたが、これまで冬の関東選抜卓球大会に出場が叶うことはありませんでした。チャンスすら感じるものがしばらくありませんでした。これを機に振り返っていきたくと思います。

まず、関東選抜卓球大会に出るための条件を整理します。シンプルに考えれば、「県大会にて6位に入ること。」複雑に考えると、「内シードの学校を2校倒すこと」が条件である。まず、埼玉県において、角シード相当の学校を倒すのは相当難易度が高いです。(例えば、男子なら、新座二中・日進中・春日部東中・勝瀬中・狭山中央中などが挙げられます。)

外シードには勝てない…

もし、自分の学校にシード権がない場合は、まず①内シード側に入る必要性(これは運以外ない)がある。②内シードを倒し、角シードと当たる。(勝てば関東選抜だが…)③負けたら自校を除いたベスト8の3校のいずれか1校を倒す。という3つのステップを踏む必要がありました。そして何より、チームがある程度完成していることが求められます。

くじ引き…

これまでの和光二中では、男子では3回チャンスがありました。

1回目 令和5年度、代表者会議にて、①の条件を突破した。しかし、その内シードはその時私は知らなかったが、ガチガチの狭山中央中(最終的に夏も全国大会まで行っているチーム)であった。当然のように0-3負け。本気で関東選抜を目指していたので結構ショックでした。その悔しさをばねに、その後も頑張っ活動することができたと思います。

学総も男子はベスト16…本気で悔しかったです。その分も奮起して女子は第5代表として関東大会に進めました。男子も女子も高校でも続けてくれている子もいます。心から応援しています。

<令和5年度>

新人兼県民総合スポーツ大会(男子)				コート
開始	時分	終了	時分	(回戦・準々決勝・準決勝・決勝)
				狭山中央中 3対0 和光二 中
1				櫻井 3 { 11-8 } 0 古木
2				塚本 3 { 11-8 } 0 小山
3				村本 3 { 11-8 } 0 宇土 向井
4				勝田 3 { 11-7 } 1 塚原
5				平塚 3 { 11-9 } 1 猪股

2回目 令和6年度、外シード側に入り、①の条件を満たせなかった。「終わった」と思ったが、県大会にて奇跡的に第4シードだった騎西中を3-2で倒すことができた(②の例外である)。その後、内シードだった勝瀬中(結果ベスト4)にやられ、迎えた代表決定戦。③くじ引きの結果、対戦相手は今まで負けたことのない青柳中。「いける!」そう思ったのもつかの間。あれよあれよという間に2番手がストレート負けをして、2-3負け。やられてしまいました…

タイムアウトって皆さんご存知ですか? 関東(選抜)決定の時などは、タイムアウトが使えます。この試合の時、私完全に忘れてました。2セット落としてから気付いたのでもう間に合わず…みなさんは試合に熱くなりすぎて忘れないようにしてくださいね!!!!!!

<令和6年度>

新人体育大会兼県民総合スポーツ大会				14-18	コート
開始	時分	終了	時分	(回戦・準々決勝・準決勝・決勝)	
				青柳 中 3対2 和光二 中	
1				古川 3 { 11-5 } 0 津田	
2				上野 1 { 5-11 } 3 星野	
3				上野 3 { 11-7 } 0 高橋 清水	
4				赤部 3 { 11-11 } 0 林	
5				室崎 3 { 11-9 } 0 坂本	

3回目 令和7年度は、学総でベスト8に入っていたおかげで、内シード入り(①・②の条件を突破)。そのまま勝ち上がりベスト8。

そして、外シードの日進中にボコボコにされる。③代表決定戦に回るが、候補はやったことのない騎西中・いつも接戦の勝瀬中・よく練習試合をしていたが全く勝てない狭山中央中の3択であった。「頼む、勝瀬中きてくれ! (失礼)」と思っていたが、部長が引いたくじで狭山中央中。「はい、終わった～」と内心思っていたが、子どもたちには「県大会最後の試合だから楽しんでやろう!」と声をかけた。負けてもともとでノンプレッシャーの和光二中、勢いだけで結果は3-2勝ち。最後の和光二中のカットマンと狭山中央中のペン粒の選手の試合は普段出ないボールもたくさん見られました。チームとしては圧倒的に狭山中央中の方が強かったが、オーダーと勢いだけで押し切った形になりました。そのおかげか次の日の女子団体は優勝できました。勢いって大事…。本当にコーチの2名、保護者の方々、たくさん練習試合をしてくれた相手校の顧問の先生や生徒たちそして何より生徒たちのおかげで念願の男女で関東選抜に出場することができます。最高の3度目の正直を達成できました。

<令和7年度>

R7 新人体育大会 男子団体		コート	
開始	時分	終了	時分
(四球・早々決球・早決球・決球)			
和光第二中	3	対	2 狭山中央中
1	山本	0	{ 7-11 } 3 鈴木
2	島中	0	{ 3-11 } 3 大井川
3	安井 東島	3	{ 8-11 } 2 大西 関根
4	林	3	{ 11-9 } 0 富安
5	清水	3	{ 8-11 } 2 前田

ここまで読んでいただいたらわかる通り、関東選抜に出場するのも、運が必要です。また、運が巡ってきたときに逃さないチーム編成力と気力が求められます。「鍛錬千日之行、勝負一瞬之行」。次に運が回ってきたときのために、爪を研いでおきたいと思います。ありがとうございました。

和光市立第二中学校 男女卓球部顧問 河本 晃紀

マガジン第17号はいかがでしたでしょうか？

今回は、関東中学校選抜卓球大会(関東選抜)に出場したことがある顧問の先生方に執筆していただきました。いろいろな思いや努力の上に花が咲くことがよくわかりますね。さて、今年は3月14日、15日の2日間、栃木県の日環アリーナにて第32回関東中学校選抜卓球大会が開かれます。栃木県中体連のHPに組み合わせなどがアップロードされていますので、ぜひご覧ください！今回も執筆していただいた先生方、大変お忙しい中、時間を割いていただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます！

では、次号もお楽しみに！最後に…**読者アンケート**をお願いします！(下のURLをタップしてください！)

読者アンケート↓

<https://forms.gle/WRrF76tRgDUwZSraA>



Table tennis specialty department
Saitama Junior High School Physical Culture Association

卓球でしか叶わない“夢、がある。

だから、いま卓球をしよう。

卓球はソコから始める。

埼玉県中体連卓球専門部



こちらからもアンケートにいけます！1分で終わります！